

2026年卒
会員調査

キャリア意識やインターンシップ等に関する調査

2024年6月発行

就職活動準備の一環として、インターンシップ等のプログラムを活用する動きは年々強まっている。夏季プログラムへの参加を控えた5月後半、キャリタス就活登録学生のうち2026年3月卒業予定者を対象に、インターンシップ等への参加意向や、就職に関する意識などを調査・分析した。

《目次》

1. インターンシップ等への参加意向
2. キャリア形成支援 4類型別参加意向
3. 参加したい時期
4. 参加したい内容と期待する成果
5. 参加方針
6. 参加企業を探す手段
7. 現時点で興味のある仕事・業界
8. 興味を持ったきっかけ
9. 望ましい就職活動の形式
10. 就職戦線の見方
11. 大学生活について

《調査概要》

調査対象：キャリタス就活会員のうち
2026年3月卒業予定の全国の大学3年生・大学院修士課程1年生

調査時期：2024年5月16日～31日

調査方法：インターネット調査法

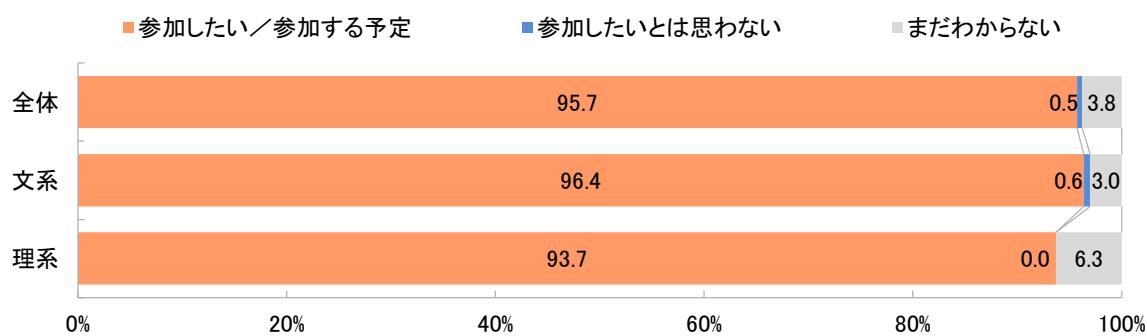
回答者数：1,056人（文系801人、理系・学部生180人、理系・大学院生75人）

調査機関：株式会社キャリタス／キャリタスリサーチ

1. インターンシップ等への参加意向

大学3年生（修士1年生）の5月後半時点での、インターンシップやオープン・カンパニー等のプログラムへの参加意向を尋ねた。「参加したい／参加する予定」が9割を超え（95.7%）、参加意欲の高さが顕著に表れている。

＜インターンシップ等への参加意向＞



《学生のキャリア形成支援活動（4類型）》

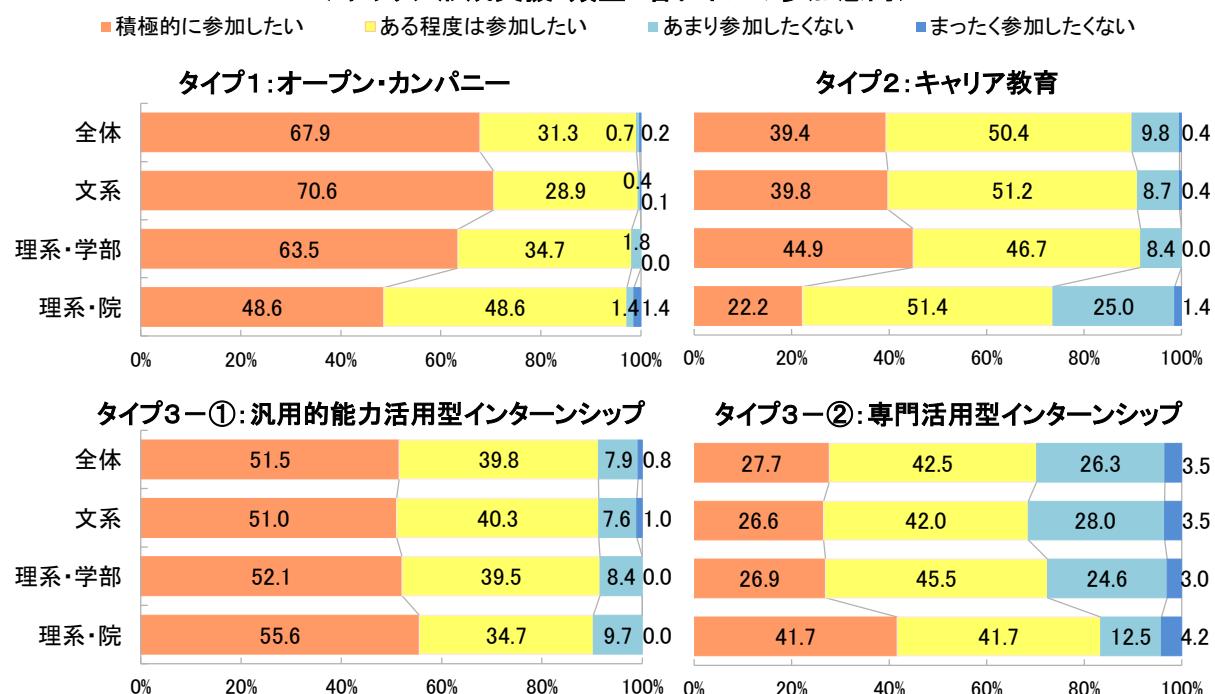
- タイプ1：オープン・カンパニー（業界・企業による説明会・イベント／単日）
タイプ2：キャリア教育（大学等の授業・産学協働プログラムや企業による教育プログラム）
タイプ3-①：汎用的能力活用型インターンシップ（職場における実務体験／5日間以上）
タイプ3-②：専門活用型インターンシップ（職場における実務体験／2週間以上）
タイプ4：高度専門型インターンシップ（試行）（高度な専門性を有する修士課程学生・博士課程学生対象）

2. キャリア形成支援 4 類型別参加意向

インターンシップ等に参加意向がある学生（全体の 95.7%）に、4 類型それぞれの参加意向を尋ね、文理別に比較した。

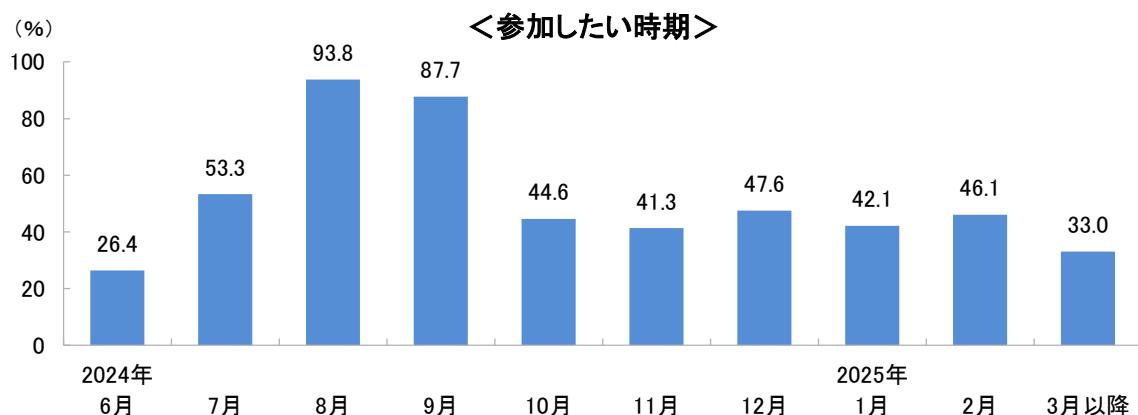
「タイプ1：オープン・カンパニー」は、「積極的に参加したい」が 7 割近くに上る（67.9%）。理系に比べ文系で高い。次に参加意向が強いのは「タイプ3-①：汎用的能力活用型インターンシップ」で、5 割超（51.5%）が「積極的に参加したい」と回答。文理ともに過半数を占める。「タイプ3-②：専門活用型インターンシップ」は、2 割台だが（27.7%）、理系院生では 4 割を超える（41.7%）。

＜キャリア形成支援4類型 各タイプの参加意向＞



3. 参加したい時期

参加したい時期は、「8月」（93.8%）、「9月」（87.7%）に集中しているのが目立つ。「7月」も半数以上が選んでおり（53.3%）、現時点では、夏季休暇中の参加を目指している学生が圧倒的に多いことがわかる。ただし、2月まで4割台が続いている、時期を問わず参加したい学生は少なくない。

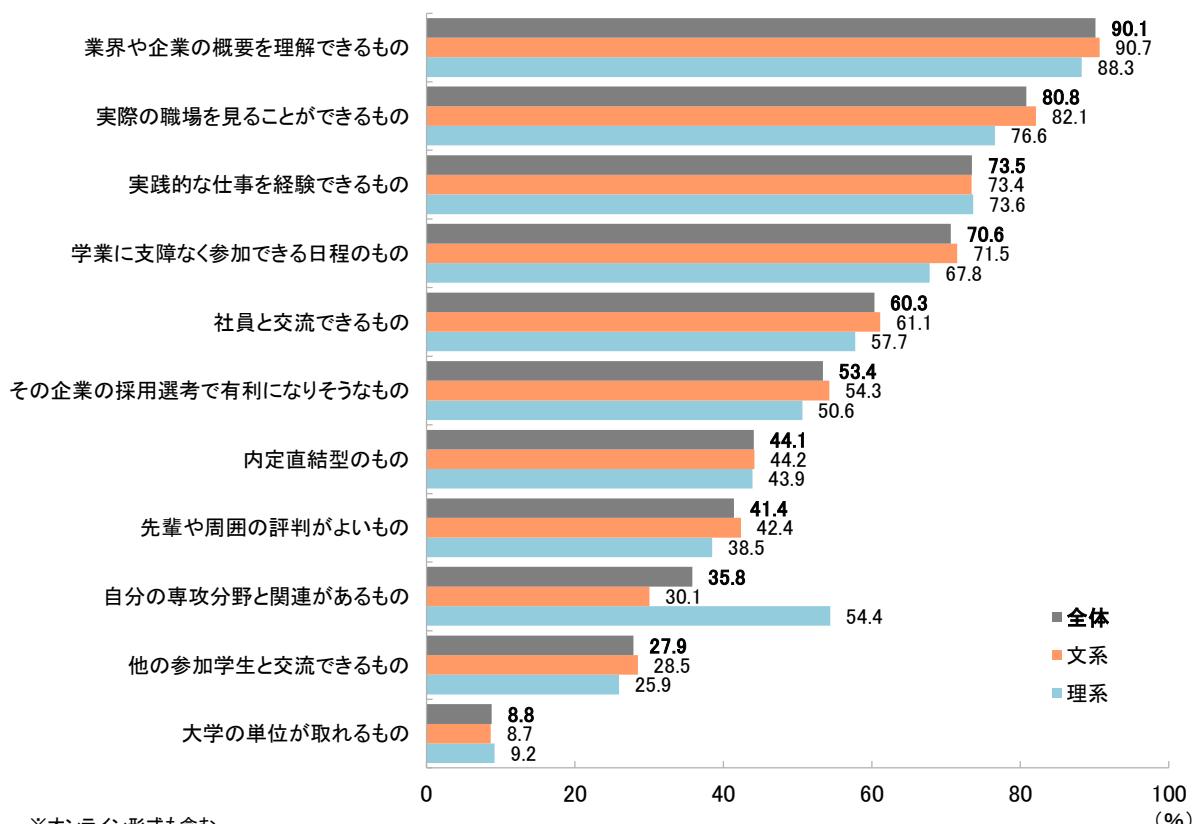


4. 参加したい内容と期待する成果

続けて、どのようなプログラムに参加したいのかを尋ねた。最も多いのは「業界や企業の概要を理解できるもの」で、9割が選んだ（90.1%）。次いで「実際の職場を見ることができるもの」（80.8%）、「実践的な仕事を経験できるもの」（73.5%）が続く。プログラムへの参加を通じ、まずは業界や仕事内容について理解を深め、働くイメージをつかんでいきたい学生の考えがうかがえる。「学業に支障なく参加できる日程のもの」は7割が選んでおり（70.6%）、夏季休暇中の参加希望が多いことと符合する。

なお、理系は「自分の専攻分野と関連があるもの」が54.4%で、文系に比べ20ポイント以上高い。

＜参加したいプログラム内容＞



※オンライン形式も含む

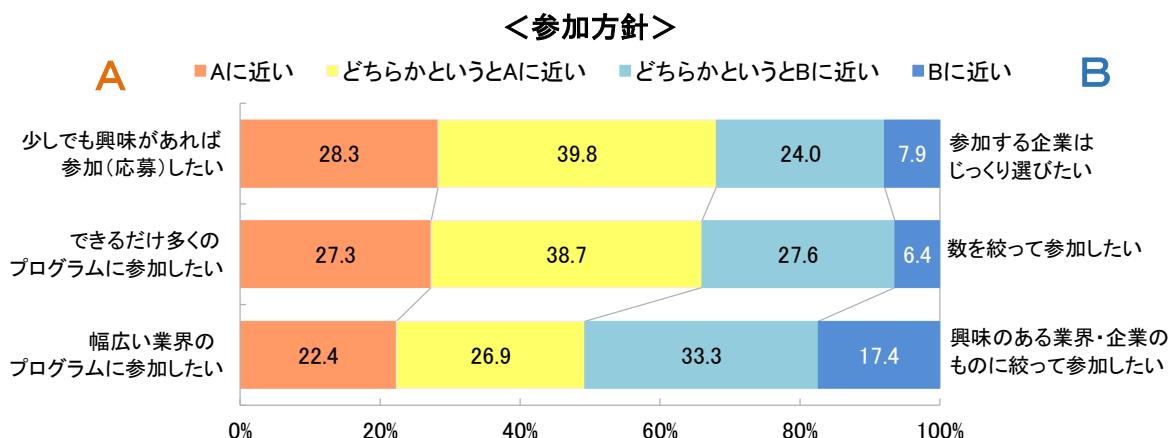
■参加にあたり期待する成果

- 多くの企業について知って自分の選択肢を広げる。 <文系女子>
- ネットで見た情報ではなくて、自身が体験してその仕事に合っているのか知りたいです。 <文系男子>
- 働くとはどういうことなのか、自分の長所・短所や身につけるべき力を理解したい。 <理系女子>
- 自分が興味を持っている分野の仕事を実際に体験してみて、思っていた通りの仕事内容なのかどうかを確かめることで、自分の就活をうまく進められるような情報を得たい。 <理系男子>
- 社会人との交流を通して、コミュニケーション能力の向上を図りたい。 <文系女子>
- 現場の雰囲気や働き方がわかること。自分に適性があるかどうかがわかること。 <理系女子>
- 入社後どのような環境で働くことになるのか、その会社がどのような企業文化なのかをある程度実感し、就職先の選定に生かし、また自らの成長や研究活動に生かすこと。 <理系男子>
- 自身のキャリアについて考えが固まるきっかけとなること。今後の選考が有利になること。 <文系女子>
- 自己理解が進む、選考で有利になるなど、就職活動を円滑に進められるような成果。 <文系男子>

5. 参加方針

インターンシップ等への参加方針について3つの指標で尋ねた。「少しでも興味があれば参加(応募)したい」が6割強に上り(計68.1%)、「参加する企業はじっくり選びたい」(計31.9%)を大幅に上回った。「できるだけ多くのプログラムに参加したい」も同じく6割強を占める(計66.0%)。

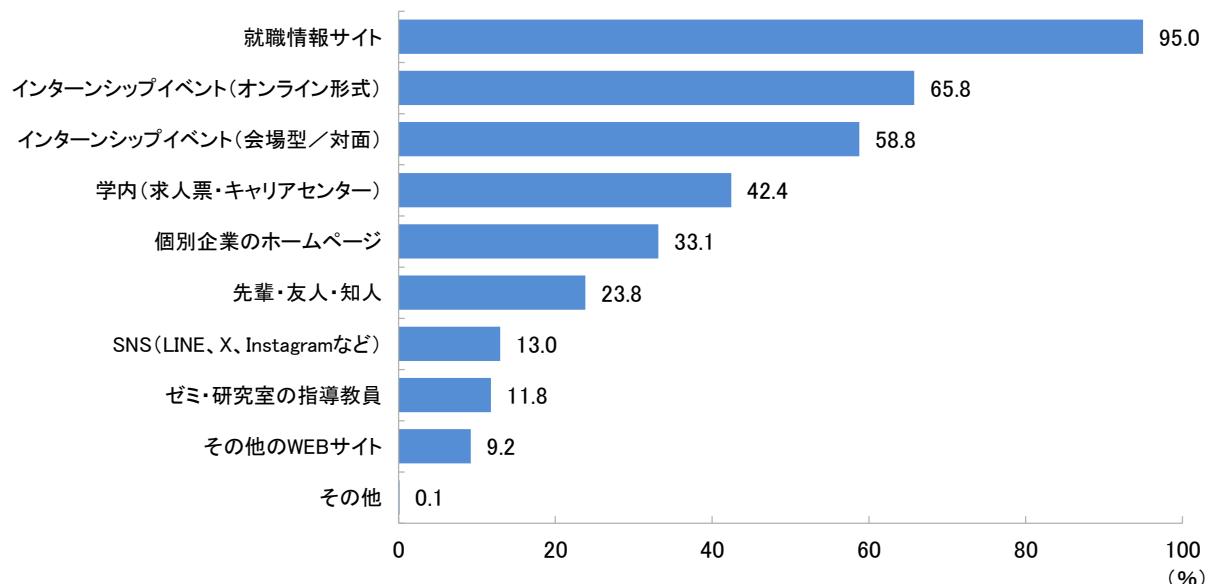
「幅広い業界のプログラムに参加したい」と「興味のある業界・企業のものに絞って参加したい」は拮抗している。



6. 参加企業を探す手段

参加企業を探す手段(今後の予定も含む)として最も多いのは「就職情報サイト」で、突出している(95.0%)。続く「インターンシップイベント(オンライン形式)」は6割強が選んだ(65.8%)。「インターンシップイベント(会場型)」が6割近くに上り(58.8%)、対面でのイベント参加を希望する学生も少なくない。他にも「学内(求人票・キャリアセンター)」4割強(42.4%)、「個別企業のホームページ」(33.1%)など、様々な手段を活用し、情報収集をしようとしている様子がわかる。

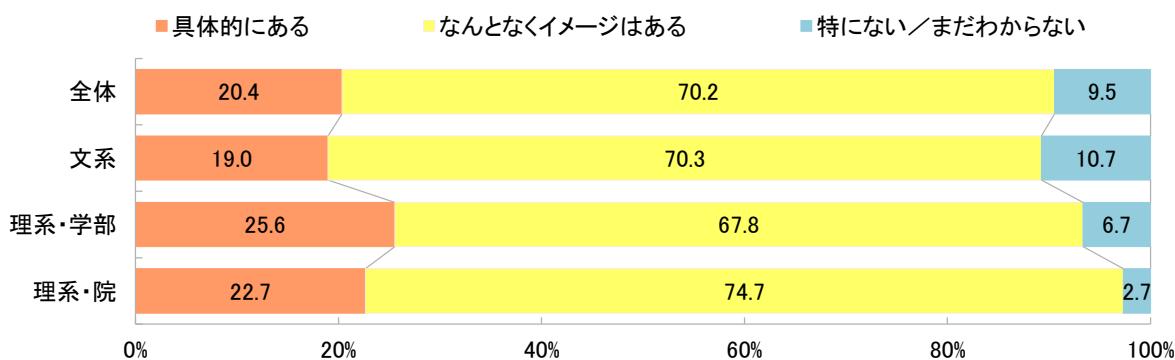
<インターンシップ等の参加企業を探す手段>



7. 現時点での興味のある仕事・業界

興味のある仕事や、やりたい仕事について尋ねると、「なんとなくイメージはある」が7割を占め(70.2%)、「具体的にある」は2割にとどまっている(20.4%)。現段階ではやりたい仕事が明確になっていない学生が大半であり、漠然としたイメージを具体的なものしていくためにも、インターンシップ等のプログラムに積極的に参加したいと考えているのだろう。属性別に見ると、文系よりも理系の方が「具体的にある」の割合がやや高い。

＜現時点での興味のある仕事・やりたい仕事の有無＞



現時点で興味を持っている、あるいは働いてみたい業界を、12分類の中から3つまで選んでもらった。文系の1位は「サービス」(49.2%)で、僅差で「メーカー」(48.7%)が2位。ここに「商社」「マスコミ」が3割台で続く。理系は、学部生・院生ともに1位「メーカー」、2位「IT・通信」の順。文系は比較的ポイントが分散しているのに対し、理系は1位の「メーカー」に集中しているのが目立つ。

＜現時点での興味がある・働いてみたいと思う業界＞

属性		業界別選択率 (%)				
		文系	理系・学部	理系・院	※3つまで選択 (%)	
1	メーカー	53.2	サービス	49.2	メーカー	61.2
2	サービス	39.0	メーカー	48.7	IT・通信	36.8
3	商社	25.3	商社	31.2	官公庁・団体	21.7
4	IT・通信	25.1	マスコミ	30.2	建設・住宅・不動産	21.1
5	マスコミ	23.1	金融	24.5	エネルギー	19.7
6	官公庁・団体	22.3	官公庁・団体	23.7	サービス	13.2
7	金融	20.1	IT・通信	19.6	流通・小売	11.2
8	流通・小売	15.8	流通・小売	18.2	商社	9.9
9	コンサルティング	14.0	コンサルティング	16.0	金融	5.9
10	建設・住宅・不動産	13.8	建設・住宅・不動産	12.4	コンサルティング	5.3
11	エネルギー	10.9	運輸	8.0	建設・住宅・不動産	4.6
12	運輸	7.2	エネルギー	7.2	流通・小売	5.6
					マスコミ	4.2

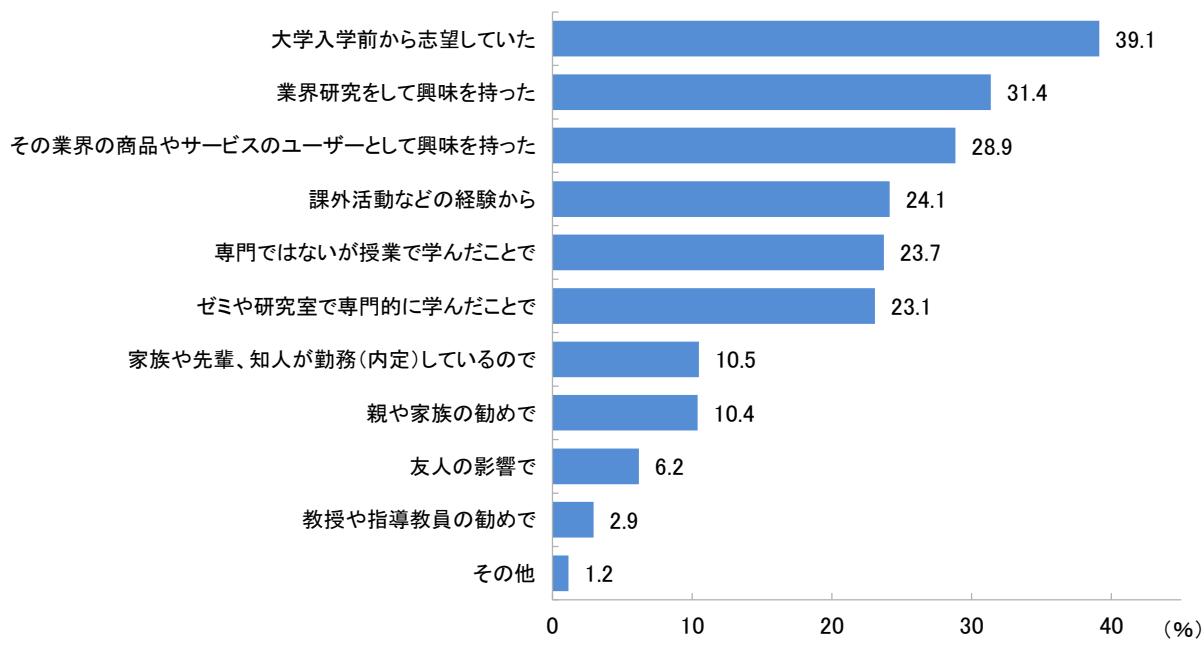
※「サービス」=ホテル・旅行・教育・福祉など

8. 興味を持ったきっかけ

興味を感じる仕事や働いてみたい業界について、興味を持ったきっかけを尋ねた。最も多いのは「大学入学前から志望していた」で4割近く(39.1%)。「業界研究をして興味を持った」が約3割で続き(31.4%)、すでに業界研究を始めた学生も少なくないことがわかる。次いで「商品やサービスのユーザーとして興味を持った」(28.9%)が続き、まずは身近なところから関心を持つ学生も多いようだ。

属性別に見ると、理系学部生で「大学入学前から志望していた」が半数に上り(50.0%)、進学の際に将来の就職を見据えた進路選びをしている学生が多いことがうかがえる。理系院生では「ゼミや研究室で専門的に学んだことで」が6割に上り(61.6%)、研究分野の専門性を生かした就職を考える学生が圧倒的に多い。文系は「商品やサービスのユーザーとして興味を持った」や「課外活動などの経験から」が理系に比べ高い。

＜その仕事・業界に興味を持ったきっかけ＞

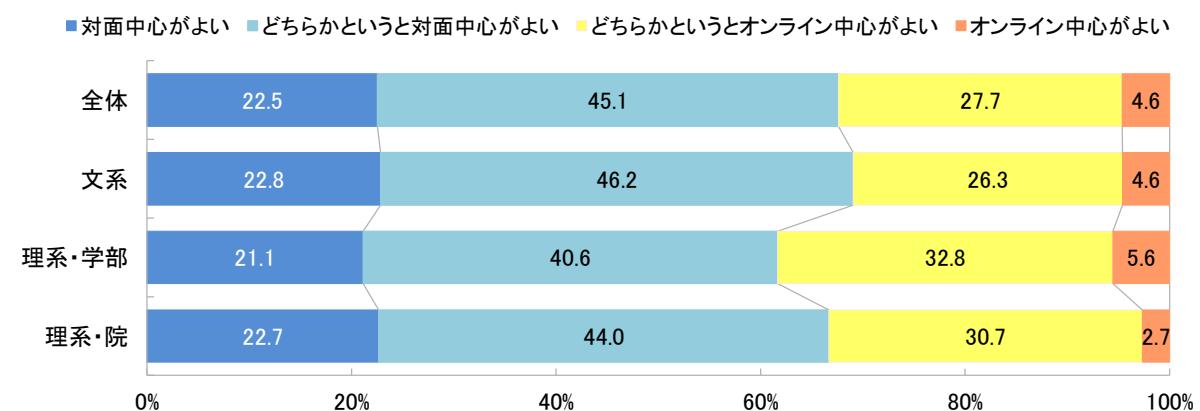


		全体	文系	理系・学部	理系・院
1	大学入学前から志望していた	39.1	36.7	50.0	38.4
2	業界研究をして興味を持った	31.4	32.9	22.6	37.0
3	その業界の商品やサービスのユーザーとして興味を持った	28.9	31.0	23.2	20.5
4	課外活動などの経験から	24.1	27.9	14.9	8.2
5	専門ではないが授業で学んだことで	23.7	21.6	31.5	26.0
6	ゼミや研究室で専門的に学んだことで	23.1	18.3	26.8	61.6
7	家族や先輩、知人が勤務（内定）しているので	10.5	10.3	10.7	12.3
8	親や家族の勧めで	10.4	11.2	10.1	2.7
9	友人の影響で	6.2	6.0	3.0	15.1
10	教授や指導教員の勧めで	2.9	3.2	1.8	2.7
11	その他	1.2	1.4	0.0	1.4

9. 望ましい就職活動の形式

この先の、インターンシップをはじめとする就活準備や、セミナー・面接などの就職活動について、対面とオンラインのどちらの形式で進めたいかを尋ねた。「どちらかというと対面中心がよい」が最も多く、4割を超える(45.1%)。「対面中心がよい」(22.5%)と合わせると7割近く上り(計67.6%)、対面の機会を求める学生が多いことが読み取れる。属性による大きな差は見られない。

＜望ましい就職活動の形式＞



○実際に足を運んで職場の雰囲気を体感したい。

<文系女子>

○気軽に参加できる点ではオンラインがよいが、情報の質としては対面が勝りそう。

<文系男子>

○オンラインよりも対面のほうが実際の人柄などを評価してもらえると考えている。

<理系男子>

○対面だと他の参加者ともコミュニケーションが取れる。

<文系男子>

○インターンや面接では実際の空気感を掴みたいが、説明会レベルのものはオンラインでいい。 <理系女子>

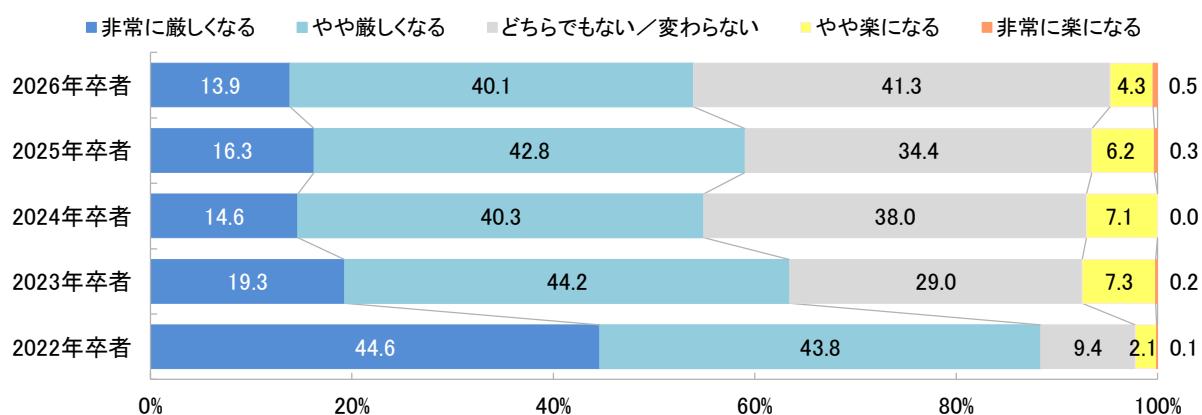
○部活と学業とアルバイトを両立させながらだと時間が足りないから、隙間時間で参加できるオンラインがありがたい。

<文系女子>

10. 就職戦線の見方

自分たちの代の就職戦線が1学年上の先輩たち(2025年卒予定者)に比べてどのようになると見ているのか、その見通しを尋ねた。「非常に厳しくなる」13.9%、「やや厳しくなる」40.1%で、あわせて半数強が厳しくなると予想(計54.0%)。コロナ禍を経て就職環境は「売り手市場」の傾向が強まっており、この5年で最も低い数字となったものの、初めての就職活動に不安を感じる学生は多いようだ。

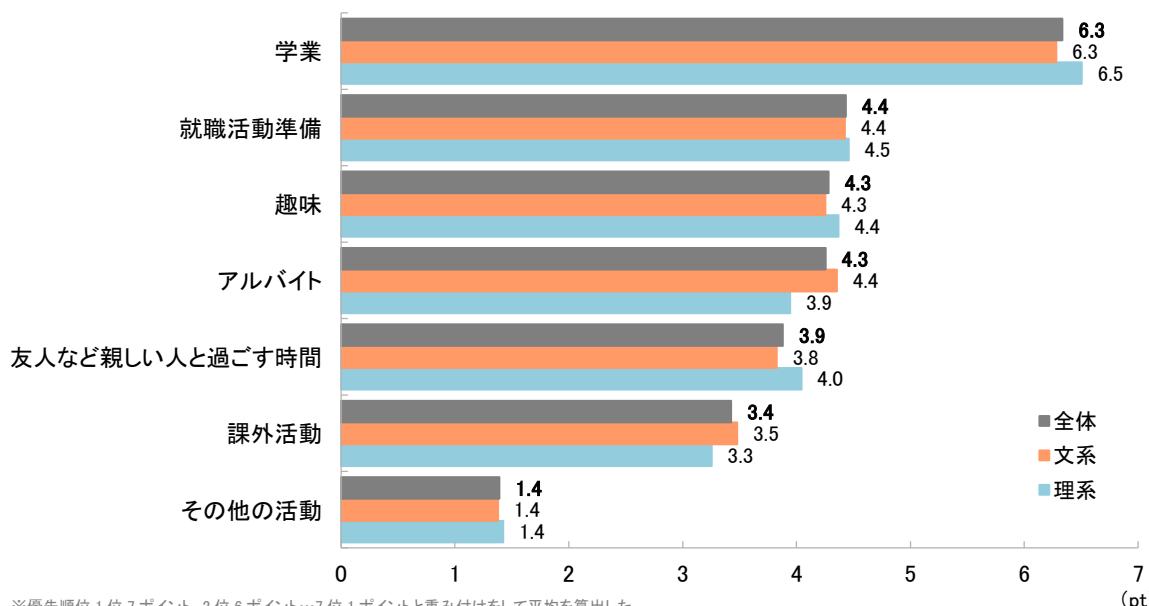
＜就職戦線の見方＞



11. 大学生活について

学生生活についても尋ねた。学業など7つの項目について、現時点での優先順位をつけてもらい、加重平均スコアを算出した。最も高いのは「学業」で集中度が高い。2位が「就職活動準備」で、早くも就職活動に意識が向いている学生が多いようだ。僅差で「趣味」「アルバイト」「親しい人と過ごす時間」が続いており、学業以外は比較的分散している。文理による大きな差は見られない。

＜現在の生活の中での優先順位(加重平均スコア)＞



なお、現在の登校頻度を尋ねたところ「週4～5日」が7割強を占めた(74.6%)。平日はほぼ毎日登校している学生が多いことがわかる。先に見たように、インターンシップ等のプログラムを探す際に学業の妨げにならないことを重視する学生は多く、長期休暇中など学生が参加しやすい時期に開催することが重要だと言えるだろう。

＜大学に登校する日数／週＞



■就職活動に関する不安

- 右も左もわからず、何をしたらいいのかわからない。 <文系男子>
- 学業が忙しく、あまり就活について調べられていない。 <理系女子>
- 情報が多くて処理しきれていない。 <理系男子>
- まだどういう業界に自分が入りたいのかもはっきりしていない。 <文系女子>
- 本当に自分に合った職場があるのかとか不安です。 <文系男子>
- 他の学生のように課外活動に積極的ではなかったので、面接で話せるエピソードがあまりない。 <文系女子>
- あまり知り合いが多くないので近くに相談できる人が少ない。 <理系男子>